

平成25年4月23日
大阪市立自然史博物館
担当： 金沢 至(昆虫研究室)
電話 06-6697-6222

自然史オープンセミナー・シンポジウム 「ゴケグモ類の現状と問題」の開催について

1995年に大阪市立自然史博物館友の会会員により大阪府南部で発見されたセアカゴケグモは、その後分布を徐々に拡げ、2013年1月現在で全国の24府県で記録されています。関西地方における分布拡大と密度増加に伴い、咬傷事例も増加しています。また、クロゴケグモ、ハイイロゴケグモなど他のゴケグモ類も発見されていて、合計5種の生息が確認されています。これらゴケグモ類の分布拡大と毒性については、あまり注目されておらず、安易な楽観論や間違った情報も流れています。

このセミナー・シンポジウムでは、日本列島におけるゴケグモ類の分布や毒性などの現状を総括して、問題点を洗い出し、今後の対策に生かす方法を皆で考えます。このセミナー・シンポジウムを、広く市民の皆様へ広報していただけるようお願い申し上げます。

内容（予定）

- 13:00～ 「ゴケグモ類とはどのようなクモか」
西川 喜朗（追手門学院大学 名誉教授）
- 13:25～ 「セアカゴケグモの発見と咬傷分析」
金沢 至（大阪市立自然史博物館）
- 13:50～ 「セアカゴケグモの毒性」
杉本 央（大阪大学 医学部 教授）
- 14:15～ 「自然毒としてのゴケグモ類などの毒」
乾 公正（日本毒性学会 認定トキシコロジスト）
- 14:50～ 「行政の内側から見たセアカゴケグモ騒動」
富永 修（四条畷保健所）
- 15:15～ 「ゴケグモ類の分布拡大と波紋」
清水 裕行（大阪市立自然史博物館 外来研究員）
- 15:40～ 「ゴケグモ類に対する厚生労働省の対策」
小林 睦生（国立感染症研究所 前昆虫医科学部長）
- 16:15～ 総合討論

日時 2013年5月18日（土）午後1時～5時

会場 大阪市立自然史博物館 講堂

申込み 不要です。直接会場へお越しください。

対象 どなたでも参加できます。

定員 150名（先着順）

参加費 無料。

ただし自然史博物館本館への入館料が必要（大人 300 円、高大生 200 円）。
※中学生以下、障がい者手帳等持参者（介護者 1 名含む）、大阪市内在住の
65 歳以上の方（要証明）は無料。

主催 大阪市立自然史博物館・関西クモ研究会・大阪市立自然史博物館友の会

後援 日本昆虫学会・日本環境動物昆虫学会・日本応用動物昆虫学会

備考 大阪府医師会生涯研修（番号:349、単位:4）に認定されています。

所在地 〒546-0034 大阪市東住吉区长居公園 1-23

TEL 06-6697-6221、FAX 06-6697-6225

ホームページ <http://www.mus-nh.city.osaka.jp/>

地下鉄御堂筋線「長居」駅下車 3 号出口・東へ 800m

JR 阪和線「長居」駅下車東出口・東へ 1000m

画像

画像 1：セアカゴケグモの若いメス

（桂孝次郎氏撮影。毒グモ騒動で新聞報道されたもの）



画像 2：ハイイロゴケグモのメス

（桂孝次郎氏により毒グモ騒動の際に大阪市南港で撮影されたもの。大阪市ではその後絶滅したが、日本各地で分布が拡大している）



画像は広報用写真としてご利用いただけます。

電子ファイルとして必要な際は、下記へお知らせください。

自然史博物館総務課 広報担当 長縄（ながなわ） naganawa@ocmo.jp